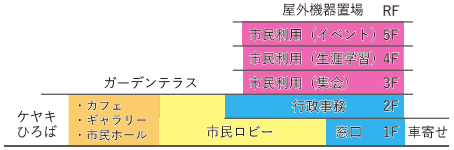
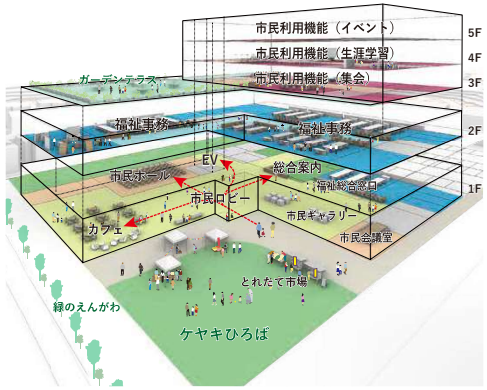
市民協働を誘発するコミュニティ拠点

1 利用者の利便性を高めるコンパクトな建築計画

多様な利用者に配慮した明快なフロア構成

・1 階に窓口と市民活動支援機能（市民ロビー、カフェ、ギャラリー、市民会議室、市民ホール）を集約します。
・2 階に行政事務機能を集約し、セキュリティと独立性を確立します。
・3 ～ 5 階に市民利用機能を集約します。3 階を集会フロア、4 階を生涯学習フロア、5 階をイベントフロアとし、目的の異なる多様な利用者に配慮した、分かりやすく利便性の高い施設計画とします。





3 ～ 5 階：使いやすいボックス型の高層階

集会室等の比較的小規模な部屋で構成される市民利用機能を 3 ～ 5 階に集約することで、高層階の床面積を必要最小限に抑えるとともに、同一フロア内の利用者動線を短縮します。

2 階：ワンフロア完結型の行政サービス

行政事務機能を 2 階に集約することにより、職員の相互連携および利用者の利便性を高めるとともに、バックオフィスの集約化による省スペースを実現します。

1 階：ワンステップアクセスの L 型フロア

メインエントランスから目的の場所へダイレクトにアクセスできる L 型平面とすることで、あらゆる利用者の移動距離を軽減します。

2 多様な市民活動を誘発する“外からみえる”コミュニティ機能

協働の起点となる市民ロビー

・ケヤキひろばに面した L 字型の市民ロビーにカフェや市民ギャラリーを設けることで、屋内外に賑わいが連続する交流・憩いの場となります。
・2 層吹抜けの市民ヴォイドを設け、目的の行き先が一目で見渡せる開放的で分かりやすい玄関とします。

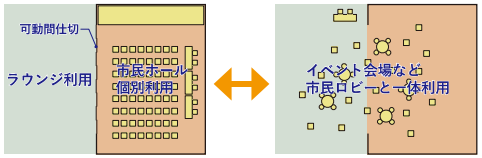
自然光にあふれた、開放的で親しみやすい市民ロビー

・総合案内（公民館事務室）と福祉総合窓口を隣接して配置することで、相互連携が容易な、市民にも職員にもやさしい窓口とします。

ロビーと繋がる市民ホール

・1 階市民ホールは、可動建具を開放することにより市民ロビーと一体利用が可能な、フレキシブルな空間です。

多様なイベントに対応した市民ホール



多目的な市民会議室

・1 階の市民会議室は、行政の会議室としてだけでなく、市民利用機能として開放された協働の場となります。
屋内外から活動が見えるガラス張りの空間とすることで、人々の市民活動への関心を高めます。

ガーデンテラス

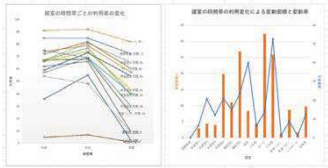
・3 階の『ガーデンテラス』は、コミュニティラウンジと連続した屋外の憩いの場として開放します。市民によるプランター菜園など活動の様子が外からも見え、景観に潤いを与えます。

外から見えるコミュニティ機能

3 多様なニーズに対応した集会機能

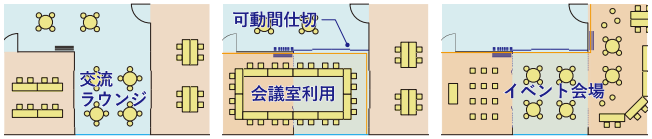
効率的な集約化を実現する多角的な利用率分析

中央公民館および福祉会館の各室利用率を、時間帯による変動率・変動面積の 2 軸で分析し、同等の広さを確保する機能、複数の部屋を 1 つに集約する機能、可動間仕切りによって可変的とする機能に分類することで、利用実態に即した実用的な共用化・多目的化をおこないます。


利用率分析グラフ

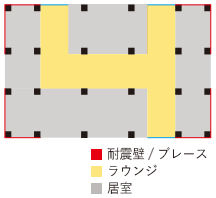
可動間仕切による柔軟な運用

時間帯による変動率・変動面積が大きい機能は、可動間仕切りで可変的に区切れるスペースとすることで、フレキシブルに利用できる空間とします。



外殻構造によるフレキシブルな可変プラン

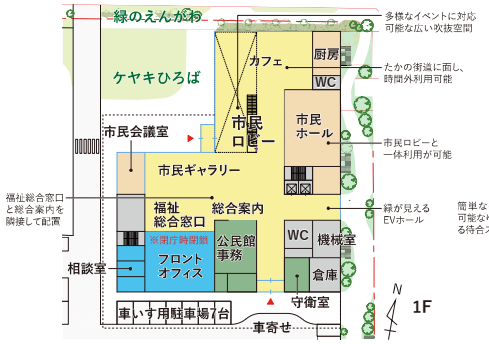
3 ～ 5 階は室内側に耐震要素を設けない外殻構造とすることで、市民ワークショップ等による計画段階での部屋割り変更にも容易に対応できる計画とします。また、将来的にニーズが変化した際の間仕切りの移動や追加にも対応可能な、機能の共用化・多目的化に柔軟に対応できる構造・建築計画です。

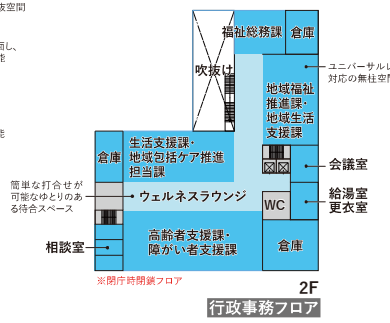


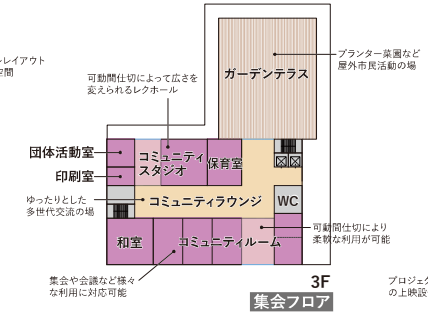
新しい仲間づくりのきっかけとなるコミュニティラウンジ

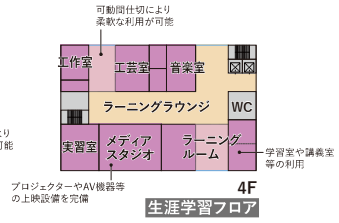
・様々な利用者が訪れる 3 ～ 5 階は、廊下幅員を広げて開放的なコミュニティラウンジにすることで、多世代交流を促進する憩いの場を提案します。
・床仕上げや家具には木材等の自然素材をつかい、あたたかみのあるインテリアとします。

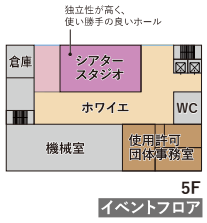
開放的であたたかみのあるコミュニティラウンジ











想定面積

市民ロビー、カフェ	1100㎡
市民ホールなど	250㎡
福祉ラウンジ	380㎡
福祉事務室、相談室など	1300㎡
福祉倉庫	270㎡
給湯室・更衣室など	100㎡
公民館事務室	100㎡
公民館倉庫（事務）	30㎡
公民館倉庫（備品）	100㎡
3~5F個室	2200㎡
3~5Fラウンジ	1000㎡
使用許可団体事務室	170㎡
機械室・WCなど	700㎡
合計面積	**7700㎡**